

# 万博を終えて

万博が終了し「万博ロス」の方もおられるかもしれませんが、私もその一人です。

当初は1回くらい行って雰囲気味わえばいいと思っていたのですが、行きつけの美容室のオーナー夫妻が休日のたびに行っておられ、しかも4月下旬あたりから通期パス3万円チケットの2割引きの割引券が会場に行った人に配布され、その割引券をオーナーからもらったことがきっかけで、通期パスを24,000円で購入し行くことになり、11回行ってきました。

振り返ると、5月頃から足しげく通ってあればもっとたくさんパピリオンを回っていたはずなのですが、7月中旬までは仕事が忙しく精神的余裕もなく、それ以後に本格的に通い始めました。

人気パピリオンの予約は全く取れなかったのですが、「イタリア館」はどうしても行きたくて、例の美容室の方に聞くと朝一番に並んだ方が待ち時間は少ないとのことで、チャレンジしました。

10月1日、最寄りの大阪メトロの始発電車5時5分に乗り、途中で中央線・夢洲行きに乗り換え、5時50分頃に到着。すでに1,000人近い人が並んでいました。徹夜組もいたらしいと。列に並びながら大きな朝陽が昇るのを見ました。

東ゲート入場は8時50分から開始され、8時58分に入場、夢洲に着いて約3時間待ちでした。

幸い、隣に今日で26回日来場というお一人様女性がおられ、7時頃には「今、トイレに行っという方が待ち列が短いよ」とか、イタリア館まで行く最短ルートを教えて頂いたりなど、万博おしゃべりをしたおかげで、3時間もあっという間でした。



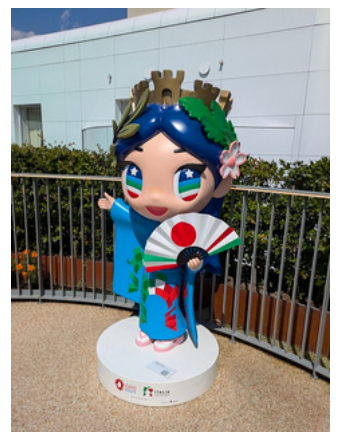
イタリア館は西ゲート側なので小走りで約10分。9時8分にイタリア館前に着くと既に長蛇の列で、2時間待ちの看板が出ていました。イタリア館に入場できたのが10時58分、約2時間待ちでした。これでも早く入れた方で、1時間到着が遅いと5時間待ちなど当たり前で、最長8時間待ちだったそうです。

イタリア館の展示物をご存じの方も多いと思いますが、イタリア各地の博物館や美術館などが所蔵している最高傑作ばかりで、これが万博会場に一堂に会し見られるという奇跡は、もう二度とないと思うと心が躍りました。

以下が、私が魅せられた展示作品です。

- ・「ファルネーゼ・アトラス」  
(天球儀を肩に担いだアトラス・大理石の彫像・  
高さ2m・重さ2トン) ナポリ国立考古学博物館所蔵
- ・「キリストの復活」ミケランジェロ・ブオナローティ  
(大理石の彫像) ラツィオ州バッサーノ・ロマーノの  
サン・ヴィンチェンツォ・マルティーレ教会所蔵
- ・「アトランティックコード」レオナルド・ダ・ヴィンチ (素描)  
ミラノのヴェネランダ・ビブリオテカ・アンブロジアーナ  
所蔵
- ・「キリストの埋葬」カラヴァッジョ (絵画)  
ヴァチカン美術館 所蔵
- ・「正義の旗」ペルジーノ (絵画)  
ペルージャ ウンブリア国立美術館所蔵

イタリア館の  
マスコットキャラクター  
イタリアちゃん





万博への出展は158ヶ国、7つの国際機関、国内民間企業・団体13団体との事です、そのうち回れたのは80くらいです。

この中にはコモンズといって大きな建物の中に、複数の国、多いところでは30ヶ国くらいの展示があり、ミニ世界旅行をしている感じでした。それぞれの国の文化・暮らし・自然を伝える展示や映像、民族衣装や手工芸展示、販売がされていて、ショップでは値段交渉もしながら楽しめました。

様々なパビリオンを見て、「ここは熱量が違うな。見入ってしまった」というところもあれば「何を伝えようとしているのか解りにくいな」など、印象もそれぞれでした。

また、パビリオンにいるスタッフも、積極的に話しかけたり写真撮影に応じるところもあれば、スタッフ用のカウンターの中にこもって下を向いてスマートフォンをいじっている人もいました。

どこの組織も企業も同じだなと感じながら、「どのような思いで仕事をするのか」「何故これをするのか」「何を目指しているのか」というミッションを明確にし、伝え続け、更に検証し、また伝えていかないと、働く人にも顧客にも伝わっていかないのだなと、改めて感じた万博でした。



大屋根リングの下



けあ人財アカデミー合同会社  
代表 垣内 イスズ